

西嶋和紙 宇宙を飛ぶ

ACTIVE KUMIAI



左:笠井雅樹理事長 右:若田光一氏

道をしたい。」と答えたそうである。これを見た布団屋のおっちゃんも、紙屋のおっちゃん達にこの話を伝え、忘れかけていた夢を思い起こさせてくれたという。

地場産業である、西嶋和紙は、近年、外国産の安価な和紙の流入と、後継者不足、従業員確保の難しさや、原材料費の高騰など、多くの困難を抱え、苦闘している。そんな中で、この「きぼうの紙」は、まさしく「きぼうの紙」として、西嶋和紙に携わる者のみならず、身延町民にも明るい話題として「きぼう」の灯を、ともすことになると考えた。

どんな紙が良いか、皆で考え、薬品を使わず、自然素材だけで作る昔ながらの製法に、西嶋和紙工業協同組合で開発した、スカシの技法を組み合わせることにし、心を込めて、皆で一枚一枚漉いたという。

「子供の頃の宇宙に行くという夢が、少し形は変わりましたが、叶いました。」「近い将来、この身延町から、宇宙飛行士や、宇宙の謎を解く、科学者が生まれることが、新たな、私の「きぼう」と「夢」になりました。こんな、おっちゃんでも、また、新しい夢がみられます。」と笠井理事長は感動の気持ちを語ってくれた。

若田さんの書は、「なかとみ現代工芸美術館」のロビーにて無料公開中である。若田さんの書を見て、多くの子供達が、あらためて、夢や希望を、胸に抱いてくれることが関係者一同の望みである。



書道をする若田さん